

【海外の教育事情】

オーストリアの高等教育のグローバル化

—制度の枠組みと留学生の状況を中心に—

Globalization of Higher Education in Austria: Framework of Institution and the Situation of Foreign Students

釧路公立大学講師 田中 達也

TANAKA Tatsuya

(Assistant Professor, Kushiro Public University of Economics)

キーワード：オーストリア、留学生、グローバル化

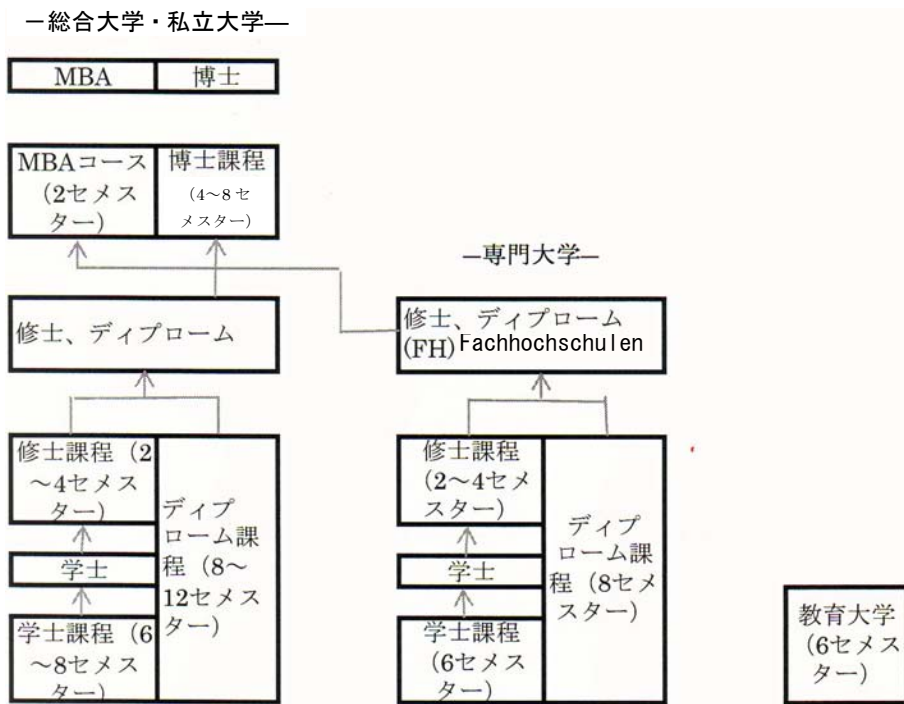
はじめに

オーストリアと言うとどのようなイメージがあるだろうか？最初に思い浮かぶのは、音楽である。ウィーン少年合唱団が毎年来日し公演を行っているし、音楽を学んでいる日本人留学生も多い。首都ウィーンは、音楽都市として有名であり、モーツァルト、ベートーベン、シューベルト、マーラーなどが有名である。また、モーツァルトの出身地であるザルツブルクも音楽教育が有名である。次に思い浮かぶのは、スキーやハイキングである。ティロル地方は、夏はハイキング、冬はスキーが盛んである。プロのスキーヤーを目指して多くの若者が日本からインスブルックに渡りトレーニングを行っている。本稿では、オーストリアの大学の枠組みと留学生の状況についてまとめる。

1. オーストリアの高等教育制度

図1は、オーストリアの高等教育制度である。オーストリアの高等教育機関は、総合大学、専門大学、私立大学、教育大学の4つからなっている。総合大学と教育大学は国立で、専門大学と私立大学は私立である。総合大学(Universitäten)は、日本の国立大学に近く、学術系と芸術系に分かれる。学術系は、教員による講義が主体で学生規模が大きいのに対し、芸術系は音楽・芸術といった実践が重視され、その能力によって選抜が行われる。教育課程は、学士(3年間)、修士(2年間)、博士(3年間)の3段階からなっている。一部には、学士と修士が一体化したディプローム(4-6年間)が残されている。

図1 オーストリアの高等教育機関の体系図



出典) Statistik Austria より。

表1 オーストリアの高等教育機関の学生数と留学生数 (2015/2016 学年冬semester) ¹

	全学生数	留学生数	日本人留学生数	留学生比率
総合大学全体 ²	280,445 人	73,795 人	299 人	26.3%
総合大学 (学術大学)	272,041 人	69,452 人	不明	25.5%
総合大学 (芸術大学)	9,609 人	4,535 人	不明	47.2%
私立大学	8,438 人	3,331 人	65 人	39.5%
専門大学	48,051 人	8,060 人	10 人	16.8%
教育大学	14,550 人	990 人	不明	6.8%
神学高等教育機関	307 人	189 人	不明	61.6%
合計	351,791 人	86,365 人	不明	24.6%

出典) Statistik Austria より。

¹ 在学生のみの対象で科目等履修生・聴講生は含まれていない。

² 総合大学 (学術大学)、総合大学 (芸術大学) には、複数の大学に所属する学生が重複している。しかし、総合大学全体では1名として扱われるため、合計数が一致していない。

専門大学(Fachhochschulen)は、1994年に設立された新しい高等教育機関で、実践的な教育が重視され日本の専門学校に近い性格を持っている。教育課程は、学士(3年間)と修士(1-2年間)の2段階からなっているが、ディプローム(4年間)も若干残っている。総合大学との違いは、学士課程で1 Semester(半年)分の(国内・国外を問わない)インターンシップが義務づけられている点である。

表2 オーストリアの高等教育機関別留学生上位出身国(2015/2016 学年冬 Semester)

	総合大学	私立大学	専門大学
1	ドイツ: 27,007 人	ドイツ: 1,781 人	ドイツ: 3,406 人
2	イタリア: 8,482 人	イタリア: 179 人	イタリア: 510 人
3	トルコ: 3,149 人	中国: 140 人	ハンガリー: 435 人
4	ボスニア・ヘルツェゴビナ: 2,993 人	スロヴェニア: 131 人	クロアチア: 269 人
5	クロアチア: 2,465 人	ロシア: 118 人	ボスニア・ヘルツェゴビナ: 226 人
6	ハンガリー: 2,445 人	アメリカ合衆国: 97 人	セルビア: 207 人
7	セルビア: 1,940 人	ウクライナ: 91 人	ウクライナ: 203 人
8	ブルガリア: 1,741 人	スロヴァキア: 83 人	スロヴァキア: 182 人
9	ルーマニア: 1,517 人	セルビア: 78 人	ロシア: 173 人
10	ポーランド: 1,460 人	韓国: 71 人	インド: 146 人

出典) Statistik Austria より。

私立大学(Privatuniversitäten)は、1999年に設立され、日本の私立大学に近い性格を持っているが、規模はかなり小さい。教育課程は、学士(3年間)、修士(2年間)、博士(3年間)の3段階からなっている。総合大学との相違点は、政府からの補助金がないため、授業料が高額なことである。

教育大学(Pädagogische Hochschulen)は、教師を養成するための高等教育機関である。2007年に中等後教育機関の教員養成アカデミーと、継続教育機関の教育研究所とが合併される形で成立したのが教育大学である。日本の教育大学と教職大学院に近い。

神学高等教育機関(Theologische Lehranstalten)は、ローマ・カトリック教会によって設立された神学校の中で、連邦政府によって大学(Hochschule)と承認された高等教育機関である。その多くが総合大学神学部、私立大学、教育大学に移行していったのだが、現在は2校が設置されている。卒業生は、他の高等教育機関の卒業生と同等の扱いがされる。この大学は、外国からの留学生が極端に多いのだが、学生数が若干であるため、本稿では対象外とする。

2. 高等教育機関における学生数と留学生数

2015/2016 学年冬セメスター（2015 年秋）の全高等教育機関の学生数は、351,791 人であった。このうち、最も多いのは総合大学で全学生数の 79.7% を占めている。次に多いのが専門大学 13.7% であり、教育大学 4.1%、私立大学 2.4% が続く。大学ごとの留学生の比率に目を向けると、最も留学生比率が高いのは芸術系の総合大学で 50% 近くにも上る。次に高いのは、私立大学で 40% 弱となっている。その後には、学術系の総合大学 25.5%、専門大学 16.8%、教育大学 6.8% となっている（表 1）。

1990 年代以降に設立された私立大学、専門大学、教育大学の中で、私立大学はグローバル化や EU 加盟の影響を受けているのだが、専門大学と教育大学については必ずしもそうはなっていない。それは、教育課程が関係している。私立大学は、総合大学と競合関係にあり厳しい条件が課せられる。大きな特徴は、連邦政府からの補助金が禁止されていることである。設立当初は、あらゆる公的補助金が禁止されていたのだが、設立される大学が予想以上に少なかったため、規制が緩和され地方自治体（州・市町村）からの補助金が可能になっている。それだけではなく、①総合大学では同内容の教育課程の提供が困難であること、②多くの留学生を受け入れるなど大学のグローバル化を進めることが求められている。そのため、教育課程が限定され、留学生比率が高くなっている。

より具体的に説明するため、2 つの代表的な私立大学を紹介する。1 つ目は、ウィーン市立音楽・芸術私立大学である。2 つの学部が設置され、音楽学部は指揮・作曲、鍵盤楽器、弦楽器、管楽器・打楽器、ジャズ、古楽の 6 学科から成り、舞台芸術学部は声楽とオペラ、ミュージカル、ドラマ、ダンスの 4 学科から成っている。この大学は、芸術系総合大学よりもさらに実践を重視した教育を行っている。中にはミュージカルやドラマやダンスといった芸術大学では実施の難しい教育課程が提供されている。

2 つ目は、ウィーンウェブスター大学である。この大学は、ウィーンの国連機関が集中する地区に国連関係者の子弟のための高等教育機関として設立された。教育言語は、英語のみで、オーストリアを含む西ヨーロッパからの学生は、25% にとどまる。この大学の学生には、選択で外国のウェブスター大学（中国、ガーナ、スイス、タイ、オランダ、英国、アメリカ）で学ぶことができ、それらは卒業単位に組み込むことが可能という特徴がある。

それに対して専門大学と教育大学は、私立大学ほど総合大学との競合関係が見られないことから留学生比率が低い。専門大学は、多くの運営主体が地方政府（州、市町村）、地方の経済界であるため、地域のニーズに合った人材の養成が重視されている。また、学士課程では学外でのインターンシップが義務づけられているコースが多いことと、修士課程では社会人学生の比率が多いことも留学生の比率が低いことに繋がっている。

教育大学については、オーストリアの学校教育制度が他国と共通しないシステムになっているため、留学生の比率が極端に小さい。例えば、もしオーストリアで小学校の教師になる資格を有していたと

しても、(同じ言語であるにも関わらず)ドイツで教師になることは出来ないのである。それは、教員養成に関する法律が国ごとによって異なるためである。

3. 留学生の出身国

次に、どの国からの留学生が多いのかについて見ていく。表2は、留学生の出身国の上位についてである。入学者選抜が一部を除いて行われない総合大学(学術系・芸術系)と、入学者選抜が行われる私立大学・専門大学でその傾向が若干異なる。1点目は、総合大学は規模の大きさから1ヵ国当たりの留学生数が多く、上位10ヵ国はいずれも1,000人を超えている。それに対して私立大学や専門大学の留学生数は、ドイツ以外は極端に少ない。

2点目は、構成国の多様性である。総合大学は(トルコを含む)ヨーロッパが上位を占めているのに対して、専門大学や私立大学は、ヨーロッパ外からの留学生も多い。私立大学では、中国、ロシア、アメリカ、韓国、専門大学ではロシア、インドがそれに該当する。

ちなみに、日本人留学生数は、総合大学300人程度、私立大学65人、専門大学10人である。近隣の韓国や中国よりも学生数が少ないことは、日本の学生の内向き志向が窺われる。

4. 音楽・芸術系、スポーツ系学科における留学生の状況

日本から馴染みのある、音楽・芸術系、スポーツ系学科における留学生についてまとめる。まず学術大学の自然科学分野に属するスポーツ学科について述べる。スポーツ学の学士課程の学生数は、1,928人でそのうち留学生は340人(17.6%)である。修士課程の学生数は、503人で留学生は165人(32.8%)である。学生数は、全体的に少なく留学生の比率も小さいが、それは入学者選抜が行われているためである。

学士課程・修士課程ともに入学するためには、2つの条件をクリアしなければならない。1つ目は、ドイツ語能力であり、ヨーロッパ基準のB1以上の能力が求められる。オーストリアの大学に入学するためには、多くの場合B2かC1の能力が求められるので、これは比較的達成が容易である。日本では、ゲーテ・インスティテュートが実施する検定試験かオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験の合格によって取得できる。2つ目は、スポーツ学科の追試験に合格することである。この試験は、主に身体的能力をチェックするために1年に2回実施される。このように、オーストリアの大学ではスポーツの養成教育は質の維持が重視されている。それに対し、日本ではスポーツ系の大学・学部が規制緩和され容易に入学が可能となっており対照的である。

次に、芸術大学における留学生の状況についてだが、多くのコースがあるため専門分野ごとに見ていく。音楽分野の学生数は、5,033人で留学生は2,833人(56.2%)である。舞台芸術分野の学生数は、494人で、留学生は261人(52.8%)である。視覚・応用美術分野の学生数は3,427人で、留学生は1,265

人(36.9%)である。音楽分野と舞台芸術分野では、半数以上が留学生であり、この分野で国境を越えて移動する学生が多い。また、私立大学の芸術系コースの留学生について、学生数1,851人で、留学生数880人(47.6%)である。芸術系の学部・学科に入学するためには、スポーツ学科と同様に、B1かB2のドイツ語能力の証明と学科別の入学試験の合格が必要になる。

おわりに

オーストリアは、1955年以降1980年代までは冷戦構造の中で永世中立国だったのだが、1994年のEU加盟によってグローバル化が否応なしに求められるようになった。それは、1980年には10%程度に過ぎなかった総合大学の留学生比率が3割近くまで増加したことからも明らかである。また、芸術大学は言語能力よりも演奏・絵画能力が重視されていることから留学生が多く、私立大学は総合大学を上回る留学生の受け入れが推奨されているため、ヨーロッパ外からの留学生の割合が多い。

EU加盟国が拡大していた2000年代までは、オーストリアの経済の課題はいかにEU加盟国からの良質の労働者を受け入れるかであり、高等教育もEU加盟国からの留学生を積極的に受け入れてきた。しかし、昨今英国のEU離脱に見られるように、拡大傾向に歯止めがかけられるようになった。オーストリアでは、ヨーロッパ外からの移民・難民の流入が進み、人口に占める比率が増加を続けている。日本の学生は、どの学科・コースに進んだとしても、世界情勢の現実を直視し成長していくための起爆剤として外国へ積極的に留学するべきではないだろうか。

参考文献

- ・Statistik Austria, *Bildung in Zahlen 2015/16 Schlüsselindikatoren und Analysen*, (Wien, 2017).
- ・Statistik Austria, *Bildung in Zahlen 2015/16 Tabellenband*, (Wien, 2017).